

群 教 セ	G12 - 01
	平16,221集

対象に意欲的にかかわり、知的な気付きを 深める生活科の指導

—— 自他の考えを生かす交流の場の活用を通して ——

特別研修員 滝口 晃嗣 (太田市立太田東小学校)

《研究の概要》

本研究は、児童が自他の考えを生かし、活動への見通しをもつことで対象に意欲的にかかわり、さらに今までの経験等から活動に生かせるような気付きを深めていくためのものである。具体的には話し合いの場において資料や情報の提示、言葉がけの工夫をすることで、意欲的に活動に取り組み、知的な気付きを深めていく児童の育成を目指したものである。

【キーワード：生活科 話し合いの場 知的な気付き 資料の提示 自他の考えを生かす】

I 主題設定の理由

生活科は生きる力につながる自立への基礎を養うことを目標としている。この目標は、児童が具体的な活動や体験をしながら対象に意欲的にかかわり、その中で知的な気付きを深めながら達成されていくものとする。

本学級の児童は、生活科の様々な活動の場面で意欲的に対象にかかわろうとする態度は育ちつつあるが、学習活動を進めていく中で友達と考えを出し合ったり、対象とかかわる中で感動したり不思議に思ったり自ら考えたりなどして得られる気付きを、次の活動につなげていくことに弱さがあった。

そのため、対教師や児童同士の交流を通して、思いや願いをもって対象に意欲的にかかわっていくことができれば、「こうすればもっとよくなる。もっと楽しくなる」といった次の活動につながる気付きをもてるようになると考えた。

そこで、自他の考えを学習活動に生かせるような交流の場を設定すれば、児童は交流を通して見通しをもち、対象に意欲的にかかわり、気付きを深めていくことができると考えた。

交流の場とは、よりよい活動をしていくために考えや意見を出し合い、そこから新しい気付きを生む場であり、それぞれの活動に取り組む児童の多様性を生かす場でもある。

つかむ過程では「こんなことをしてみたい」「これは楽しそうだ」といった児童の興味・関心をもとに考えを出し合う場を設定する。ここでは児童が思いや願いをもてるような言葉がけや例示を行う。さらに活動にかかわる資料を教室に掲示するなど環境構成を工夫する。こうすることで対象へのイメージをふくらませ、活動の見通しがもてるようにする。その見通しをもとに具体的な計画を立てれば、児童は対象にかかわろうとする意欲がもてると思う。

追究する過程では、よりよい活動にするための場を設定する。児童は意欲的に活動する中で様々な気付きをもつであろう。そして活動の途中で浮かび上がった問題を全員で考えていく。その中で児童は、自分たちの活動をより楽しいものにしていく方法に気付いていくと考える。

まとめる過程では、自分たちの活動を振り返り、自他の考えや取り組みのよさを認め合う場を設定する。互いのよさを発表し、話し合うことで自分の気付き、やりとげたこと、そして友達の活動のよさや友達とのかかわりについて振り返る。こうすることで児童の気付きは深まり、

新しい対象にも意欲的にかかわれるようになっていくと考える。そこで、自他の考えを生かした交流の場をそれぞれの過程で設定すれば、児童は対象に意欲的にかかわり続け、活動の中で知的な気づきを深めていくことができると考えて、本主題を設定した。

II 研究のねらい

対象に意欲的にかかわり、知的な気づきを深める児童を育てるために、自他の考えを生かす交流の場を設定することの有効性を、実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

- 1 つかむ過程では、互いの考えを出し合う交流の場Aを設定し、対象へのイメージがふくらむような言葉がけや例示、VTR等の資料をもとに話し合えば、児童は活動の見通しをもち、計画を立てて、対象へかかわろうとする意欲をもつであろう。
- 2 追究する過程では、活動の過程で明らかになった問題を解決するための交流の場Bを設定し、試行錯誤の中での気づきをもとによりよい活動にするための話し合いを行えば、自分たちの活動をより楽しいものにしていくことのよさに気付くことができるであろう。
- 3 まとめる過程では、これまでの取組みや友達の活動を振り返る交流の場Cを設定し、活動における互いのよさを認め合えば、気づきを深め、新しい対象にも積極的にかかわることができるであろう。

IV 研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 対象に意欲的にかかわり、知的な気づきを深める児童とは

対象に意欲的にかかわるとは、思いや願いを持って取り組んだ活動に最後まで熱心に取り組むことであり、知的な気づきを深めるとは、自分の気づきや友達の気づきから次の活動に生かせる新しい気づきを生み出していくことである。

本研究では、具体的に次のような姿としてとらえることにした。

- ・「こんなことをやってみたい」といった思いや願い、「この計画を成功させるにはこんな方法がある。こんな準備が必要だ」といった見通しをもつことができる姿。
- ・自分の気づきや友達の気づきをもとに話し合い、「こうすればもっと楽しくなる、もっとよくなる」といった次の活動に生かせる気づきをもつことができる姿。
- ・「こんなことができた」という満足感を味わい、「もっとこうしたい」「こんなことと関係してるのかな」といった気づきを深め、新たな意欲をもつことができる姿。

(2) 自他の考えを生かす交流の場とは

自他の考えを生かす交流の場とは、それぞれの児童がその多様性を発揮して互いにかかわり合うことで、他の児童のよさや、自分との共通性や違いに気づき、そこから次の活動につながる新たな気づきを生むことができるような話し合いの場のことである。

ア 交流の場A（・は具体的な手だてを示す）

ここは多くの情報を参考に、活動の意欲をもつための場である。児童が思いや願い、見通しと意欲をもって活動に取り組むためには多くの情報の中から自分の興味のあるものや

必要と感じるものを取り出さなくてはならない。まず教師が、児童がやってみたくなるような投げかけや情報の提示を行い、活動へのイメージがふくらむように児童の体験を引き出していき、児童が気付きをもてるようにする。次に活動計画を立ててそれを成功させる方法や準備について話し合い、見通しをもつことで活動への意欲をもてるようにする。

- ・活動のヒントになる写真や昨年度の活動の様子、作品の掲示
- ・3年生からのメッセージ VTR（去年こんなことをやったよ。楽しかったよ。など）

イ 交流の場 B

ここはよりよい活動にするための方法を考える場である。活動の途中で明らかになった問題点を解決するために友達や教師とかかわり、自分と友達の気付きをもとに話し合うことで、活動をより楽しいもの、よりよいものにする方法に気付くようにする。

- ・3年生からのアドバイス VTR（こんな工夫をしたらもっと楽しくなったよ。など）
- ・アドバイスカード（〇〇君のグループはこんな工夫があってすごいと思いました。など）
- ・もっと楽しくなる方法を考えてみよう（教師の投げかけ）

ウ 交流の場 C

ここは自分たちの活動を振り返る場である。これまでの取組みのよさや気付きを思い返し、また、お互いの活動を認め合うことで友達とよりよいかかわりをもてるようになり、さらに満足感を味わい自信をもち、次の活動もがんばろうといった意欲をもつことができるようにする。

- ・自分の活動（自己）評価カード（友達と一緒にできてとっても楽しかった。など）
- ・友達の活動（他者）評価カード（〇〇君の工夫はよかったよ、役に立ったよ。など）
- ・活動の様子を記録した VTR

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、次のような方法で授業実践を行い、検証する。

(1) 授業実践計画

対象	太田市立太田東小学校 2年 36名（男子 19名 女子 18名）		
期間	平成 16 年 10 月～ 11 月	単元名	おまつりを楽しもう
抽出児	抽出児 K よい気付きをもち意欲的に活動するが、自分の活動に夢中になるあまり他の児童とのかかわりが薄い。K のよさを活動の中から見つけ、それを話し合いの場で紹介することで自信をもたせ、他の児童とのかかわりに目を向けさせたい。 抽出児 I 他の児童とのかかわりや、よりよい活動にするために必要なことを考える力があるが、それを進んで表現する積極性がほしい。活動の中でのつぶやきや気付きをとらえ、賞賛し、話し合いにそれを取り上げることで自信をもたせ、積極的に他の児童にかかわれるようにしたい。		

(2) 検証計画

検証項目	検 証 の 観 点	検証の方法
見通し 1	交流の場 A で地域のおまつりの写真を掲示し、3 年生の感想 VTR を見てから児童の経験を引き出して話し合うことは児童が活動について見通しをもち、計画を立て、意欲をもつのに有効であったか。	行動観察 作品分析
見通し 2	ためしの活動を行い、その中で気付いたことをもとに友達や 3 年生のアドバイス、教師からの助言を生かした交流の場 B を設定することは、もっと楽しくなる遊びの作り方や遊びの工夫に気付くことに有効であったか。	アドバイスカード 行動観察作品分析
見通し 3	自己評価カードと相互評価カードを書いてから、これまでの取り組みや、友達の活動を思い返す交流の場 C で話し合うことは、活動で得た気付きをさらに深め、満足感や自信をもち、新しい対象にも意欲をもってかかわろうとすることに有効であったか。	行動観察 自己評価カード 相互評価カード

V 研究の展開

1 単元の構想

本単元は学習指導要領生活科編の内容の（６）にあたる。地域で見聞きした行事を参考にしておまつりを計画し、身の回りの自然や身近にあるものを使って作る楽しさ、遊ぶ楽しさ、そしておまつりでの遊びを通して友達とよりよいかかわりがもてるようになることをねらいと

している。まず「つかむ」過程では数種類の資料を提示し、おまつりへの思いや願いがもてるようにして、交流の場で活動の見通しと計画を立てられるようにする。「追究する」過程ではよりよいおまつりにするための試行錯誤と話し合いをしてからおまつりを行い、友達とのかかわり合いを通してより楽しいものになることに気付くようにする。「まとめる」過程ではこれまでの取組みを振り返り、話し合う。そして感想を絵や文で表現する。おまつりを通してのいろいろな気付き、自分や友達のよさを振り返ることで満足感と自信をもてるようにする。

2 単元の目標および評価規準

目標	地域のおまつりや行事を参考に、身の回りのあるものを使うなどして必要なものを工夫し、友達と協力して自分たちのおまつりをつくり、つくる楽しさや遊ぶ楽しさを味わうことができる。
評価規準	○今までの体験を生かし、協力して自分たちのおまつりをつくろうとしている。（関心・意欲・態度） ○協力して企画をまとめ、これまでの体験を生かして工夫して準備することができる。（思考表現） ○自分や友達の考えをもとに、協力してよりよいおまつりの企画・準備・運営等の仕方がわかる。（気付き）

3 指導計画（全 18 時間）

過程	時間	学 習 活 動	支援および指導上の留意点	見取りの視点 ◎関心・意欲・態度 ○思考表現 □気付き（方法）
つかむ	1	・これまでに体験したり見聞きた行事を参考に、どんなおまつりができるか話し合い、全体の活動と自分の活動を決める。 【見通し1】	・地域のおまつりや行事に関する資料を提示する。 ・対象へのイメージがふくらむような投げかけをする。 ・現3年生の感想のVTRを見せる。 ・昨年度のおまつりの様子と残っている作品を見せる。 ・似たような内容同士集まって2～4名の班になるようにする。	◎考えを出し合って楽しいおまつりを作り上げようとしている。（行動観察） ○話し合いを通して、自分のやりたい活動を決めることができる。（行動観察） □自分のやりたい活動を進める上で必要な材料や準備に気付く。（行動観察）
	2	・計画を立てて、やりたい活動を絵や文字で表す。	・自分の活動に必要な道具や材料の準備についても考えるようにする。	◎やりたい活動を絵や文字で表そうとしている。（作品分析）
追究する	5	・計画表にそって、自分の活動と全体の活動の準備・製作をする。	・児童の気付きを賞賛し全体に紹介することで、本人には自信をもたせ、他の児童にはその気付きを自分の活動に生かせるよう促す。	○これまでの体験や友達の気付きを生かし、工夫して準備を進めることができる。（行動観察）
	2	・ためしに自分たちだけで、それぞれのお店屋さんで遊んでみる。 ・アドバイスカードに友達の活動のよいところを書く。	・友達の活動のよいところを見つけよう、という視点を投げかけてからおまつりのお店で遊ぶようにする。 ・1年生でも楽しくできるかな、といった投げかけをして、招待者の立場にも目を向けるようにする。 ・よいところを具体的に書けるよう例を示しておく。	◎友達のお店屋さんのよいところを意識して遊ぼうとしている。（行動観察） □友達のよさに気付くことができる。（カード） ○友達の活動のよいところが分かる。（カード）
	1	・よりよいおまつりにするための話し合いをする。 【見通し2】	・現3年生からのアドバイスVTRと、アドバイスカードをもとに、本番のおまつりをもっともっと楽しいものにするための方法について考えるようにする。	○よりよいおまつりにする方法を考えることができる。（カード）
	2	・話し合いの結果をもとに仕上げの準備をする。	・話し合いの結果を掲示しておく。	○話し合いの結果を生かし、準備・製作を進めることができる。（行動観察）
	1	・招待状を書いて出す。		
	2	・お客さんを招待して、おまつりをする。	・修理や補修のための材料や道具を用意しておく。	◎自分たちの力で進行し、楽しいおまつりにしようとしている。（行動観察）
まとめる	2	・がんばったカード、すごいカードを書いて自分たちの活動について話し合い思ったことを文章で表す。 【見通し3】	・実際のおまつりのVTRを用意する。 ・VTRや2つのカード、招待者の感想を参考に、自分たちの活動を思い返し、自分だけでなく友達のよさについても考えるように、視点を示しておく。	○頑張ったこと、楽しかったこと、友達の活動などについて、書いたり意見を出したりすることができる。（行動観察） □活動を通しての自分のよさ、友達のよさに気付く。（カード） ◎次にやってみたいことを、絵や文章で表そうとしている。（カード）

VI 研究の結果と考察

1 つかむ過程でおまつりのイメージがふくらむような資料（写真・VTR等）を提示し、児童の経験を引き出してから話し合う交流の場Aを設定したことは、児童が見通しをもち、計画を立て、進んで対象へかかわろうとする意欲をもつために有効であったか

本単元に入る前から「早くおまつりがやりたい」「今日は生活の勉強をしないの」と、おまつりに対する意欲をはじめからもっていた2年生であった。この意欲を、具体的な活動の見通しをもち計画を立てることでより確かなものへとするために、つかむ過程で太田祭りと昨年度

太田まつりの写真を見てK男は、「ぼくは太鼓をたたいたよ」とつぶやき、その後の3年生のVTRを食い入るように見ていた。そして「みんなはどんなお店ができるかな」との教師の投げかけに、「1年生のとき、輪投げやさんがおもしろかったんだ。だからぼくもやってみたいんだ」と発言する意欲的な姿が見られた。その後3人で輪投げやさんの班を作ると、準備について話し合いを始めた。「輪は何で作るの」との教師の問いかけに「新聞紙を丸めるんだよ」と即答し、新聞やピンに使うペットボトル、賞品などの必要な材料を楽しそうに書き出していた。そして教室の隅に置いてあるペットボトルを思い出し、「先生、あれを使ってもいいの」と質問してきた。そこで、「K男が教室のペットボトルを使っていいか聞いてきたけど、OKです。ほかの班も使ってください」と全体に紹介した。すると「ほかにもないかなあ」と教室内で使えるようなものがないかを探しはじめ、「畑で使ったこの緑の棒もいいの」と質問してきた。この言動とワークシート(資料1)をK男の対象にかかわる意欲的な姿ととらえた。

みんなでおもしろくして遊ぶ。
みんながいっぱいいるといいな。
いっぱいしうびんがあるといいな。
みんなてなごよくやる。
いっぱいけんめいに
ふくる。

- このような姿から、児童は多くの情報の中からやりたいお店を決め、見通しをもち、進んで対象にかかわろうとする意欲をもつことができたと考えられる。

K男の輪投げやさんは、ためしの遊びではたくさんの子が来て遊んでくれたので、はりきってお店やさんをしていた。輪がピンに入らなかった友達には輪をサービスでよけいにあげたり、「もっと前から投げていいよ」と言うなどの工夫が見られた。

班に分かれてからは自分たちへ書かれたアドバイスカード、「簡単なと難しいのがあるといい」を見ながら3人で話し合っていた。「どうやって簡単と難しいゲームを作るの」との教師の問いかけに同じ班の子が「小さい子は前から投げてもらおうようにする」と答えた。「じゃあ、もっと小さい子が来たら」と重ねて問うとしばらくしてK男が「そうだ、小さい子は輪が棒にぶつかれば当たりにしようよ」と言い、さらにそのアイデアを女の子の輪投げやさんに伝えに行った。また、それを聞いた射的やさんの班では「射的も小さい子は当たればたおれなくてもいいことにしようぜ」となり、K男のアイデアは他のお店でも採用されることになった。

K男は「僕の考え、すごいだろう」と大満足のようにであった。この姿を、もっと楽しくなる遊びの工夫とそのよさに気づき、意欲をもったものととらえた。

I子のお店はためしの遊びではきれいなビーズが大人気で、4人とも嬉しそうであった。ビーズやさんに来た子が「ただ売るだけじゃなくて、何かゲームをするといいよ」と言ったので教師が「今の聞いた？どうする」とたずねると4人ともうなずいて考えていた。

班での話し合いでは自分たちへのアドバイス「ゲームにしたらおもしろいお店になるかも」をもとに意見を出し合っていた。一人が「生活科室にあった大きなサイコロを使おうよ。出た数だけビーズをあげるの。先生、あれを使っていいですか」と言ったので、「じゃあ、先生が6ばっかり出しちゃおうかな」と投げかけると、「6をなくしちゃえ」との声が出て、次にI子が「一番大きいのが3くらいのインチキサイコロをつくらうよ」と発言した。「それいいよ」と賛同されて自分のアイデアが班の子に受け入れられたI子は、その後の話し合いでは積極的に意見を出した。教師はI子の発言を賞賛した後、このアイデアを全体に紹介した。I子はその後サイコロ作りの担当になり、ワークシートの話し合いによる工夫の欄に「インチキサイコロを作ってお客さんに楽しんでもらう」と書いた。この姿を、もっと楽しくなるお店の作り方に関して気づきを深め、意欲をもったものととらえた。

抽出児以外の班での話し合いによる工夫（マジックやさん）

お客さんのいすをたくさん用意する。1年生は前で大人はうしろ。だけど小さい子をつれてきた大人は一番前にする。
(お客さんは1年生・大人・小さい子がいる。と、アドバイスカード「一度に何人が見られるの」をもとに話し合った結果による)

このような姿から、児童は他の児童とのかかわりに目を向け、より楽しくなる方法に気づき、新たな見通しを立てて、意欲をもって準備を進めることができたと考える。

3 振り返る場面において自己・他者評価カードやVTRをもとに互いの活動のよさを認め合う話し合いの場Cを設定したことは、児童の気づきをさらに深め、満足感や自信をもち、新しい対象にも意欲的にかかわろうとすることに有効であったか

交流の場Cでは、友達のお店のよさを見つけるという視点で書いた他者評価カードの内容を発表してから意見を出し合った。ビーズやさんに対しては「おとなが作ったみたいにじょうずだった」との意見に続いて「ビーズやさんがおもしろかったです。それは、サイコロがあったからです」との意見が出た。その意見には「私もおもしろかった」「ぼくは3を出した」と同調する声がいくつか上がった。その時に班の子から「I子のアイデアだね」と言わたI子はニコニコしていた。

最後に書いたあきまつの感想文(I子)

わたしは、あきまつりができて本当によかったです。サイコロもお客さんが喜んでくれてうれしかったです。お母さんも喜んでくれました。今度はちがうお店やさんもやってみたいです。

I子

話し合いのときのI子の様子とおきまつの感想文から、互いのよさを認め合うことを通して気づきを深め、満足感や自信をもち、新しい対象にかかわろうとする意欲をもつことができたと考える。

VII 研究のまとめと今後の課題

- 子どもは自分の経験から考えを出発させる。そのため今までの経験や知識をあらためて想起させてから児童のつぶやきや気づきを相互に生かし、見通しを立てられるような話し合いの場をもつことは児童の気づきを深め、意欲をもたせるのに有効であることを実感できた。
- 今後は話し合いをさらに効果的にするためにするための資料の開発や工夫、そして児童のつぶやきを気づきへとかえていくための手だての工夫などが課題であると考ええる。

